

### Ⅲ 結果

#### 1. 結果に関する留意点

5 病院の部門別原価計算にあたっては、回収されたデータに制約があったため本調査研究で設定した計算方法が実施できない病院があり、そのような該当病院については代替手段を用いて計算を実施した。病院間で分析した結果の比較を行う際にはその点を留意して頂きたい。

図表 8 5 病院の計算条件

協力病院	計算条件
A 病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入院外のレセプト・データが集計された紙媒体での提供であり制約があったため、中央診療部門の三次配賦にあたっては以下の代替手段を用いた。 ⇒入院、外来部門の点数比率で配賦を行っている（C病院と同じ対応）。</li> <li>●その他については、本調査研究で設定した計算方法で実施。</li> </ul>
B 病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医師勤務時間調査は院内独自で実施したものが提供された。 ⇒医師のみ異なる手法で収集されたデータを活用している（看護師は、本調査研究で設定した方法に則り実施）。</li> <li>●その他については、本調査研究で設定した計算方法で実施。</li> </ul>
C 病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入院外のレセプト・データが集計された紙媒体での提供であり制約があったため、中央診療部門の三次配賦にあたっては以下の代替手段を用いた。 ⇒入院、外来部門の点数比率で配賦を行っている（A病院と同じ対応）</li> <li>●その他については、本調査研究で設定した計算方法で実施。</li> </ul>
D 病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医師勤務時間調査、看護師勤務時間調査は院内独自で実施したものが提出されたが、データ形式が本調査研究に必要な要素を含んでいなかったため活用できなかった。 ⇒医師、看護師ともに職員数を用いて計算している。</li> <li>●その他については、本調査研究で設定した計算方法で実施。</li> </ul>
E 病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全て本調査研究で設定した計算方法で実施。</li> </ul>

図表9 A病院の階梯式配賦による病院別原価計算結果

(上段：施設全体医業収益額を100とした場合の各項目の占める割合)

(下段：項目別部門合計を100とした場合の各部門の占める割合)

2. 計算結果概要

本調査研究は前述の通り、医療サービス提供に係る収益、費用を複数の施設より共通のルールに基づき把握するための手法を開発すること並びに当該把握の実施上の課題を整理することを目的とした。そのため、本調査研究では今回得られた病院別の部門別原価計算結果を比較することや、そこから得られた部門の経営上の課題等を評価することを目指してはいない。

本節では、共通ルールによる病院の部門別原価計算手法開発の一環として得られた実際の計算結果を概括することを通じて、本手法によりどのようなデータが得られるのか、分析、評価の視点としてどのようなことが可能となるのかを示した。

(1) 病院別の計算結果概要

①A病院

◆一次計上：

医業収益についてみると、入院部門は施設全体の医業収益のうち4割、外来部門が1割、中央診療部門において5割弱の内訳となっていた。一方、医業費用が施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門は5割、外来部門、中央診療部門、補助・管理部門がいずれも1割強であった。

◆二次配賦：

二次配賦段階における収支差額について、施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門は1割強の赤字、外来部門においては1割弱の赤字、中央診療部門は3割の黒字であった。

◆三次配賦：

入院部門は、施設全体の医業収益の8割弱、外来部門が2割程度を占めた。一方、医業費用について施設全体の医業収益に占める割合をみると入院部門は7割弱、外来部門が2割強であった。これらの配賦の結果、収支差額について施設全体の医業収益に占める割合でみると、入院部門は1割弱の黒字、外来部門は2%程度の黒字であった。

【一次計上】

	A病院				合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門	補助・管理部門	
医業収益	43.8 (43.8)	10.4 (10.4)	45.8 (45.8)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)
医業費用	50.6 (57.1)	12.7 (14.4)	12.0 (13.5)	13.4 (15.1)	88.6 (100.0)
給与費	20.3 (48.4)	5.9 (14.0)	4.8 (11.5)	11.0 (26.1)	42.0 (100.0)
材料費	19.2 (78.2)	2.8 (11.3)	2.6 (10.5)	0.0 (0.0)	24.5 (100.0)
経費	9.0 (48.3)	3.8 (20.3)	3.6 (19.5)	2.2 (12.0)	18.7 (100.0)
減価償却費	2.0 (60.1)	0.3 (8.0)	0.9 (27.2)	0.2 (4.6)	3.4 (100.0)
本部費・役員報酬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
収支差額	-6.8 (-59.7)	-2.3 (-20.2)	33.8 (297.3)	-13.4 (-117.4)	11.4 (100.0)

【二次配賦】

	A病院				合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門	補助・管理部門	
医業収益	43.8 (43.8)	10.4 (10.4)	45.8 (45.8)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)
医業費用	57.4 (64.8)	17.0 (19.2)	14.2 (16.0)	14.2 (16.0)	88.6 (100.0)
給与費	25.9 (61.7)	9.4 (22.4)	6.7 (15.8)	6.7 (15.8)	42.0 (100.0)
材料費	19.2 (78.2)	2.8 (11.3)	2.6 (10.5)	0.0 (0.0)	24.5 (100.0)
経費	10.2 (54.4)	4.5 (24.1)	4.0 (21.5)	4.0 (21.5)	18.7 (100.0)
減価償却費	2.1 (62.5)	0.3 (9.4)	1.0 (28.1)	1.0 (28.1)	3.4 (100.0)
本部費・役員報酬	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
収支差額	-13.6 (-119.6)	-6.6 (-57.9)	31.6 (277.5)	11.4 (100.0)	11.4 (100.0)

【三次配賦】

	A病院			合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門	
医業費用	75.1 (75.1)	24.9 (24.9)	0.0	100.0 (100.0)
医業費用	65.9 (74.4)	22.7 (25.6)	11.9 (13.9)	88.6 (100.0)
給与費	30.1 (71.6)	11.9 (28.4)	11.9 (13.9)	42.0 (100.0)
材料費	20.7 (84.6)	3.8 (15.4)	2.6 (10.5)	24.5 (100.0)
経費	12.5 (66.8)	6.2 (33.2)	6.2 (21.5)	18.7 (100.0)
減価償却費	2.6 (77.3)	0.8 (22.7)	0.8 (22.7)	3.4 (100.0)
本部費・役員報酬	0.0	0.0	0.0	0.0
収支差額	9.2 (81.0)	2.2 (19.0)	11.4 (100.0)	11.4 (100.0)

②B病院

◆一次計上：

医業収益についてみると、入院部門は施設全体の医業収益のうち3割強、外来部門が1割弱、中央診療部門において6割弱の内訳となっていた。一方、医業費用が施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門は4割強、外来部門、中央診療部門、がいずれも2割弱、補助・管理部門において1割強であった。

◆二次配賦：

二次配賦段階における収支差額について、施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門、外来部門はいずれも2割弱の赤字、中央診療部門は4割の黒字であった。

◆三次配賦：

入院部門は、施設全体の医業収益の6割強、外来部門が4割弱を占めた。一方、医業費用について施設全体の医業収益に占める割合をみると入院部門は6割弱、外来部門が3割強であった。これらの配賦の結果、収支差額について施設全体の医業収益に占める割合でみると、入院部門は1割弱の黒字、外来部門は2%程度の黒字であった。

図表 10 B 病院の階梯式配賦による病院別原価計算結果  
(上段：施設全体医業収益額を100とした場合の各項目の占める割合)  
(下段：項目別部門合計を100とした場合の各部門の占める割合)

【一次計上】

	B病院				合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門	補助・管理部門	
医業収益	34.8 (34.8)	7.2 (7.2)	58.1 (58.1)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)
医業費用	44.9 (49.4)	16.8 (18.4)	15.6 (17.2)	13.6 (15.0)	90.9 (100.0)
給与費	16.1 (37.8)	6.7 (15.7)	7.2 (16.9)	12.6 (29.6)	42.6 (100.0)
材料費	20.5 (68.7)	3.8 (12.7)	5.5 (18.6)	0.0 (0.0)	29.8 (100.0)
経費	6.9 (42.0)	6.0 (36.6)	2.2 (13.2)	1.3 (8.2)	16.4 (100.0)
減価償却費	1.4 (54.6)	0.3 (11.6)	0.7 (27.6)	0.2 (6.2)	2.6 (100.0)
本部費・役員報酬	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	-0.5 (100.0)	-0.5 (100.0)
収支差額	-10.1 (-111.2)	-9.6 (-105.3)	42.5 (465.8)	-13.6 (-149.4)	9.1 (100.0)

【二次配賦】

	B病院				合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門		
医業収益	34.8 (34.8)	7.2 (7.2)	58.1 (58.1)		100.0 (100.0)
医業費用	50.5 (55.6)	23.5 (25.8)	16.9 (18.6)		90.9 (100.0)
給与費	21.4 (50.2)	12.7 (29.9)	8.5 (20.0)		42.6 (100.0)
材料費	20.5 (68.7)	3.8 (12.7)	5.5 (18.6)		29.8 (100.0)
経費	7.4 (45.3)	6.7 (40.8)	2.3 (13.9)		16.4 (100.0)
減価償却費	1.5 (57.0)	0.4 (15.1)	0.7 (27.9)		2.6 (100.0)
本部費・役員報酬	-0.3 (55.5)	-0.1 (16.4)	-0.1 (28.1)		-0.5 (100.0)
収支差額	-15.7 (-172.6)	-16.3 (-179.1)	41.2 (451.7)		9.1 (100.0)

【三次配賦】

	B病院			合計
	入院部門	外来部門		
医業収益	64.2 (64.2)	35.8 (35.8)		100.0 (100.0)
医業費用	57.5 (83.3)	33.4 (37.6)		90.9 (100.0)
給与費	26.4 (62.1)	16.2 (38.5)		42.6 (100.0)
材料費	20.9 (70.1)	8.9 (36.3)		29.8 (100.0)
経費	8.6 (52.8)	7.7 (41.3)		16.4 (100.0)
減価償却費	1.9 (71.8)	0.7 (21.7)		2.6 (100.0)
本部費・役員報酬	-0.3 (70.4)	-0.1 (-)		-0.5 (100.0)
収支差額	6.6 (72.7)	2.5 (21.8)		9.1 (100.0)

③C病院

◆一次計上：

医業収益についてみると、入院部門は施設全体の医業収益のうち7割弱、外来部門が2割弱、中央診療部門において2割弱の内訳となっていた。一方、医業費用が施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門は4割、外来部門が2割、中央診療部門において3割弱、補助・管理部門は3割であった。

◆二次配賦：

二次配賦段階における収支差額について、施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門は1割強の黒字、外来部門、中央診療部門はいずれも2割弱の赤字であった。

◆三次配賦：

入院部門は、施設全体の医業収益の7割弱、外来部門が3割強を占めた。一方、医業費用について施設全体の医業収益に占める割合をみると入院部門は7割弱、外来部門が5割であった。これらの配賦の結果、収支差額について施設全体の医業収益に占める割合でみると、入院部門は3%程度の赤字、外来部門は2割弱の赤字であった。

図表 11 C病院の階梯式配賦による病院別原価計算結果

(上段：施設全体医業収益額を100とした場合の各項目の占める割合)

(下段：項目別部門合計を100とした場合の各部門の占める割合)

【一次計上】

	C病院				合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門	補助・管理部門	
医業収益	65.9 (65.9)	18.5 (18.5)	15.6 (15.6)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)
医業費用	40.3 (33.1)	20.5 (16.9)	28.3 (23.2)	32.5 (26.7)	121.5 (100.0)
給与費	25.3 (35.0)	12.8 (17.7)	7.5 (10.4)	26.6 (36.8)	72.3 (100.0)
材料費	5.9 (27.3)	1.1 (4.9)	14.7 (67.8)	0.0 (0.0)	21.6 (100.0)
経費	8.9 (35.5)	6.6 (26.6)	6.0 (23.9)	3.5 (13.9)	24.9 (100.0)
減価償却費	0.2 (61.3)	0.0 (6.4)	0.1 (30.3)	0.0 (2.0)	0.3 (100.0)
本部費・役員報酬	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	2.4 (100.0)	2.4 (100.0)
収支差額	25.6 (-119.0)	-2.0 (9.2)	-12.7 (58.9)	-32.5 (150.8)	-21.5 (100.0)

【二次配賦】

	C病院				合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門		
医業収益	65.9 (65.9)	18.5 (18.5)	15.6 (15.6)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)
医業費用	51.7 (42.6)	38.1 (31.3)	31.8 (26.1)	31.8 (26.1)	121.5 (100.0)
給与費	34.5 (47.8)	27.9 (38.7)	9.8 (13.6)	9.8 (100.0)	72.3 (100.0)
材料費	5.9 (27.3)	1.1 (4.9)	14.7 (67.8)	14.7 (100.0)	21.6 (100.0)
経費	10.0 (40.2)	8.7 (35.0)	6.2 (24.8)	6.2 (100.0)	24.9 (100.0)
減価償却費	0.2 (62.0)	0.0 (7.8)	0.1 (30.3)	0.1 (100.0)	0.3 (100.0)
本部費・役員報酬	1.1 (44.7)	0.3 (12.4)	1.0 (42.9)	1.0 (100.0)	2.4 (100.0)
収支差額	14.2 (-65.9)	-19.5 (90.7)	-16.2 (75.2)	-16.2 (100.0)	-21.5 (100.0)

【三次配賦】

	C病院			合計
	入院部門	外来部門		
医業収益	66.0 (66.0)	34.0 (34.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)
医業費用	69.6 (57.3)	51.9 (42.7)	51.9 (100.0)	121.5 (100.0)
給与費	42.8 (59.3)	29.4 (40.7)	29.4 (100.0)	72.3 (100.0)
材料費	11.8 (54.7)	9.8 (45.3)	9.8 (100.0)	21.6 (100.0)
経費	13.1 (52.6)	11.8 (47.4)	11.8 (100.0)	24.9 (100.0)
減価償却費	0.3 (78.2)	0.1 (21.8)	0.1 (100.0)	0.3 (100.0)
本部費・役員報酬	1.6 (66.1)	0.8 (33.9)	0.8 (100.0)	2.4 (100.0)
収支差額	-3.7 (17.1)	-17.9 (82.9)	-17.9 (100.0)	-21.5 (100.0)

④D病院

◆一次計上：

医業収益についてみると、入院部門は施設全体の医業収益のうち3割、外来部門が2割、中央診療部門において5割弱の内訳となっていた。一方、医業費用が施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門、外来部門はいずれも3割、中央診療部門において1割弱、補助・管理部門は2割であった。

◆二次配賦：

二次配賦段階における収支差額について、施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門は2%程度の赤字、外来部門は2割の赤字、中央診療部門においては4割弱の黒字であった。

◆三次配賦：

入院部門、外来部門の収益は、施設全体の医業収益の半数をそれぞれが占めた。一方、医業費用について施設全体の医業収益に占める割合をみると入院部門は4割強、外来部門が5割弱であった。これらの配賦の結果、収支差額について施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門は1割弱の黒字、外来部門3%弱の黒字であった。

図表 12 D病院の階梯式配賦による病院別原価計算結果

(上段：施設全体医業収益額を100とした場合の各項目の占める割合)

(下段：項目別部門合計を100とした場合の各部門の占める割合)

【一次計上】

	D病院				合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門	補助・管理部門	
医業収益	32.7 (32.7)	20.4 (20.4)	46.9 (46.9)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)
医業費用	30.2 (33.7)	30.8 (34.4)	7.1 (7.9)	21.4 (23.9)	89.5 (100.0)
給与費	13.9 (27.1)	20.2 (39.4)	0.0 (0.0)	17.2 (33.5)	51.2 (100.0)
材料費	7.3 (64.3)	2.4 (21.5)	1.6 (14.2)	0.0 (0.0)	11.3 (100.0)
経費	5.2 (27.1)	8.2 (42.3)	4.3 (22.1)	1.6 (8.5)	19.3 (100.0)
減価償却費	3.8 (71.6)	0.0 (0.0)	1.2 (23.5)	0.3 (5.0)	5.3 (100.0)
本部費・役員報酬	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	2.3 (100.0)	2.3 (100.0)
収支差額	2.5 (23.8)	-10.4 (-98.3)	39.8 (377.6)	-21.4 (-203.2)	10.5 (100.0)

【二次配賦】

	D病院			合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門	
医業収益	32.7 (32.7)	20.4 (20.4)	46.9 (46.9)	100.0 (100.0)
医業費用	34.8 (38.9)	44.1 (49.3)	10.5 (11.8)	89.5 (100.0)
給与費	17.4 (33.9)	31.7 (61.8)	2.2 (4.2)	51.2 (100.0)
材料費	7.3 (64.3)	2.4 (21.5)	1.6 (14.2)	11.3 (100.0)
経費	5.6 (28.9)	9.3 (47.9)	4.5 (23.2)	19.3 (100.0)
減価償却費	3.8 (72.8)	0.1 (2.7)	1.3 (24.5)	5.3 (100.0)
本部費・役員報酬	0.7 (32.0)	0.6 (26.1)	1.0 (41.8)	2.3 (100.0)
収支差額	-2.1 (-20.4)	-23.7 (-225.0)	36.4 (345.3)	10.5 (100.0)

【三次配賦】

	D病院		合計
	入院部門	外来部門	
医業収益	51.8 (51.8)	48.2 (48.2)	100.0 (100.0)
医業費用	44.2 (49.4)	45.3 (37.3)	89.5 (100.0)
給与費	19.4 (37.8)	31.9 (44.1)	51.2 (100.0)
材料費	8.4 (74.3)	2.9 (13.4)	11.3 (100.0)
経費	9.7 (50.2)	9.6 (38.7)	19.3 (100.0)
減価償却費	5.1 (96.6)	0.2 (51.7)	5.3 (100.0)
本部費・役員報酬	1.6 (70.2)	0.7 (29.2)	2.3 (100.0)
収支差額	7.6 (72.1)	2.9 (-13.7)	10.5 (100.0)

⑤E病院

◆一次計上：

医業収益についてみると、入院部門は施設全体の医業収益のうち7割、外来部門が1割弱、中央診療部門において2割の内訳となっていた。一方、医業費用が施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門は4割、外来部門が1割、中央診療部門において2割、補助・管理部門は2割強であった。

◆二次配賦：

二次配賦段階における収支差額について、施設全体の医業収益に占める割合をみると、入院部門は2割の黒字、外来部門は1割の赤字、中央診療部門においては4%弱の赤字であった。

◆三次配賦：

入院部門の収益は、施設全体の医業収益の7割、外来部門が3割を占めた。一方、医業費用について施設全体の医業収益に占める割合をみると入院部門は6割強、外来部門が3割であった。これらの配賦の結果、収支差額について施設全体の医業収益に占める割合でみると、入院部門は1割弱の黒字、外来部門2%の赤字であった。

図表 13 E病院の階梯式配賦による病院別原価計算結果

(上段：施設全体医業収益額を100とした場合の各項目の占める割合)

(下段：項目別部門合計を100とした場合の各部門の占める割合)

【一次計上】

	E病院				合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門	補助・管理部門	
医業収益	70.9 (70.9)	9.1 (9.1)	20.0 (20.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)
医業費用	41.4 (43.4)	10.8 (11.3)	20.5 (21.4)	22.9 (23.9)	95.5 (100.0)
給与費	15.8 (30.0)	3.3 (6.2)	14.3 (27.1)	19.4 (36.8)	52.7 (100.0)
材料費	17.4 (76.7)	3.3 (14.4)	2.0 (8.9)	0.0 (0.0)	22.6 (100.0)
経費	6.0 (40.4)	3.9 (26.3)	3.0 (19.8)	2.0 (13.4)	14.9 (100.0)
減価償却費	2.3 (56.0)	0.3 (8.0)	1.2 (30.1)	0.2 (5.9)	4.0 (100.0)
本部費・役員報酬	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	1.2 (100.0)	1.2 (100.0)
収支差額	29.5 (657.5)	-1.7 (-37.7)	-0.4 (-9.7)	-22.9 (-510.1)	4.5 (100.0)

【二次配賦】

	E病院			合計
	入院部門	外来部門	中央診療部門	
医業収益	70.9 (70.9)	9.1 (7.0)	20.0 (16.7)	100.0 (100.0)
医業費用	50.3 (52.7)	21.5 (15.3)	23.7 (19.9)	95.5 (100.0)
給与費	32.2 (43.9)	12.7 (15.5)	16.8 (24.2)	52.7 (100.0)
材料費	17.4 (76.7)	3.3 (11.7)	2.0 (8.2)	22.6 (100.0)
経費	6.8 (45.5)	4.9 (21.3)	3.2 (17.8)	14.9 (100.0)
減価償却費	2.4 (58.6)	0.4 (7.1)	1.3 (23.9)	4.0 (100.0)
本部費・役員報酬	0.6 (51.4)	0.2 (11.3)	0.4 (24.1)	1.2 (100.0)
収支差額	20.6 (456.9)	-12.4 (107.3)	-3.7 (-430.5)	4.5 (100.0)

【三次配賦】

	E病院		合計
	入院部門	外来部門	
医業収益	71.0 (71.0)	29.0 (29.0)	100.0 (100.0)
医業費用	64.5 (67.5)	31.0 (32.5)	95.5 (100.0)
給与費	32.4 (61.4)	20.3 (38.6)	52.7 (100.0)
材料費	19.3 (85.5)	3.3 (14.5)	22.6 (100.0)
経費	8.9 (59.7)	6.0 (40.3)	14.9 (100.0)
減価償却費	3.0 (74.9)	1.0 (25.1)	4.0 (100.0)
本部費・役員報酬	0.9 (70.8)	0.4 (29.2)	1.2 (100.0)
収支差額	6.5 (144.4)	-2.0 (-44.4)	4.5 (100.0)